

授業科目名 <英訳>		創薬技術・ビジネス概論 Introduction to Technology of Drug Development and Business			担当者所属・職名・氏名		医学研究科 非常勤講師 山本 博一 特定講師 池田 隆文 非常勤講師 内海 潤				
配当学年	専門職	単位数	2	開講年度・開講期	2015・前期不定	曜時限	木 6	授業形態	講義・演習	使用言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
<p>コースの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創薬に関する基本（新薬の研究開発、特許、規制、ライセンス、販売）および製薬企業やバイオベンチャーの現状などを含む産業構造を学ぶ。 ・創薬プロセスを支える最新技術、戦略、組織についての知識を得る。 ・創薬における大学の役割、大学発の発明や技術の創薬産業への技術移転、利用の実際を学習する。 <p>・創薬にかかわる産業は転換期の中にある。アカデミアや様々な業種、スタイルのビジネスが新しい創薬技術・ビジネスをめざし活動している。今後の医薬品の開発には、研究、倫理、行政の観点、効率的な産学連携の在り方など様々な切り口での創造性が求められる。創薬にかかわる領域で活躍されている方を複数外部講師として招聘し、これら現状の一端に触れる。</p> <p>教育・学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 											
[到達目標]											
<p>学習到達目標（このコース終了時まで習得が期待できること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創薬にかかわる産業の全体像と将来の方向性を技術とビジネスの両面から理解している。 ・創薬ビジネスの概略を理解し、そのビジネスに係わるための基礎知識を得る。 ・技術移転、大学と創薬関連企業との連携や大学発創薬ベンチャー、その他創薬にかかわる産業に存在する一連の活動を理解し、大学の研究成果を創薬ビジネスに生かすための基礎知識を得る。 ・自身の研究の効果的な技術移転に必要な要素を学び、共同研究の企画などの参考となる事象を理解できる。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 4月 9日 本講座の概要</p> <p>第2回 4月 16日 創薬のプロセスI 探索段階1</p> <p>第3回 4月 23日 創薬のプロセスI 探索段階2</p> <p>第4回 4月 30日 創薬のプロセスII 臨床段階1</p> <p>第5回 5月 7日 創薬のプロセスII 臨床段階2</p> <p>第6回 5月 14日 医薬品医療機器の承認プロセス</p> <p>第7回 5月 21日 医療現場ニーズからの医療製品開発戦略</p> <p>第8回 5月 28日 最近の創薬技術の動向I</p> <p>第9回 6月 4日 最近の創薬技術の動向II</p> <p>第10回 6月 11日 米国ベンチャーキャピタルの動向</p> <p>第11回 6月 25日 創薬関連企業の戦略</p> <p>第12回 7月 2日 抗体医薬品の研究開発</p> <p>第13回 7月 9日 核酸医薬品の研究開発</p> <p>第14回 7月 16日 創薬にかかわるバイオベンチャー</p> <p>第15回 7月 23日 薬剤の研究開発における課題と将来</p>											
創薬技術・ビジネス概論(2)へ続く↓↓↓											

創薬技術・ビジネス概論(2)

[履修要件]

知財選択・MPH選択

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（出席を含む）、発表とレポートにより総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

[授業外学習（予習・復習）等]

なし

(その他（オフィスアワー等）)

・前半（1回から5回）はLIMS（知財経営&国際標準化）と共通の講義となる。

人間健康科学系専攻学生の受講可否：可

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。